

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	屋上広告塔解体工事現場で	広告塔解体用ハネダシ足場上の抱き足場一部解体搬出作業時	足場丸太のリレー搬出(バケツリレーの要領)時、ハネダシ足場から一段下がった屋根部分に降ろす作業時に、ハネダシ足場の部分の最終担当者が安全帯を装着し忘れて作業していた。 ハネダシ足場上の安全な作業と考えて安全帯を装着し忘れていたが、ハネダシ足場上の他の安全な部分(手摺及び落下防止シート張り)と違い、作業場所に関してはハネダシ足場の末端で、作業時は手摺を外し尚且つシートも外しており、はずみで転落すると大ケガをする恐れがあり、危険な状態だった。	直ちに安全帯を装着させて、尚且つその場で危険性を注意し、今後の作業には装着を必ず行う様指導した。 ※改善すべき事項: 慣れた作業でも危険があり、常に作業者本人が安全確保を意識して作業すること。		○			
2	大学構内	グリストラップ清掃時	ステップに足を掛けたとき、油で滑って踏み外しそうになった。	足を掛ける前に水洗いしたが、念には念を入れて、慎重に行動する。			○		
3	一般道路	自転車で通勤途中	若者がスマートフォンを見ながら歩いており、急に立ち止まり、自転車と追突しそうになった。	不自然な歩き方をしている人を見かけたら、徐行する。		○			
4	一般道路(通勤経路)	信号が青に変わり、発進しようとした時(私用車)	赤信号を無視して、左側から猛スピードで車両が通過した。	信号の変わり目時は、一呼吸おいてから安全を確認し、発進する。		○			
5	浦安市内	道路清掃中	歩行者が赤信号で渡ってきた。	危険予測を怠らない。		○			
6	船橋市内	車にて出勤中	優先道路を走行中に15mほど先の路地より車が一時停車もせず道路に出て来た。	優先道路走行中とはいえ、周囲(路地からの飛び出しなど)に注意して走行することを心がける。		○			
7	信号のないT字路	通勤時(帰宅)	会社を出て直ぐのT字路を右折しようとして停車し、左右の状況を確認していた。右側の車が左ウインカーを出したので、左から車が来ないのを確認し、ゆっくりと発進したところ、右側の左ウインカーを出して徐行している車の後方車が追い越しをかけ、目の前を横切っていった。	後続車の動きも注意する。 追い越しに気付かず加速していたら、衝突の可能性もあった。様々なケースが起こり得ること認識し、経験と知りえた情報を糧に広い視野と予測力を磨き、今後活かして行く。		○			
8	自社工場棟内(規格外品受け箱付近)	設備二階の清掃中	ごみを受けるためにフォークリフトでごみ受け用の箱を2m半ぐらい上げ、待機していた時に、フォークリフトの爪の下を人が通ろうとしたのでヒヤツとした。	カラーコーンでフォークリフトの周りを囲い、人が進入しないようにする。		○	○		
9	訪問先施設内	レンタカーにて訪問先の駐車場に停車し、ハッチバック型の後部ドアを開けて荷物を出そうとしたとき	車輪止めが無い駐車場で後ろ側にフェンスがあり、無事に停車していたが、ハッチバック型のドアがフェンスをかすめた。	ドアを開ける前に、フェンスとの距離を確認するとともに、「接触するかもしれない」との意識を持ち、慌てずに行動を起こすこと。 また、危険予知の意識を持って行動すること。	○				
10	処分場周辺の林道	帰宅時	林道を車で走行中、猪が飛び出して来て衝突しそうになった。	車のヘッドライトを上向きにして、林道走行時の視野を広げる。(但し、対向車が無い場合のみ)			○		

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	都心部の一般道	ハザードを点灯させ路上駐車している車両の横を通過する時	一般道を走行中、ハザードランプを点灯させ停車している車両を追い抜こうとした時、急にその車両が動き出し、自車前にスレスレで入ってきた。	路上駐車している車両であっても、動き出すかもしれないという「かもしれない」運転を心掛ける。もしも、入ってこようとする気持ちが見えたら、無理に追い越さず譲る気持ちを持つ。		○			
2	片側2車線の一般道路	右側車線を走行中	片側2車線の一般道路を走行中に左レーンのバス停留所で降車した乗客がバスの陰からいきなり横断し、自車前に飛び出してきた。もう一步気付くのが遅れたら、接触してしまうところであった。	バスを降車した乗客がバスの脇から出てくる事は日常茶飯事なので、停留所に停車しているバスを見かけたら、「かもしれない」運転で速度を落とし、すぐに止まれる速度で走行する事。		○			
3	横浜新道 峰岡出口付近	雪の残る下り左カーブで渋滞中	高速の出口を出てすぐに下り坂の左カーブとなる場所で渋滞し停車した。しっかりとブレーキをかけていたが、徐々に車両が滑り出し、前方の大型車に接触しそうになった。	降雪時期は通常走行時と同じ感覚では接触の危険度が数倍上がることを認識し、車間もいつもの倍以上は確保する事。また、スタッドレスタイヤを過信することなく、チェーンを併用する事。	○		○		
4	雪の日の幹線道路にて	渋滞で停車から発進しようとしているとき	降雪時、渋滞最後尾で、前車が発進したので当方も発進しようと思ったが、軽い上り坂になっており、スタッドレスタイヤを装着しているにも拘わらず、空転し走行することができなかった。	降雪時はスタッドレスタイヤに頼りすぎることなく、常備しているチェーンを装着すること。また、受傷事故防止のため、万が一車両が動けなくなったときは発煙筒、三角停止板を使い、周囲に自車の存在をアピールする事。	○		○		
5	竣工間近の現場内	ユニック車両による積み込み中	当方のユニック車で積込中、現場の方がヘルメットもせず作業半径内に入ってきてヒヤットした。	作業現場内にはあらゆる方が往来しているため、あらゆる作業においても絶対に過信せず、確実に危険がない状態を確認した上で作業をする。特に自分は大きな車両なので、周囲から見えていると絶対に思わない事。		○			
6	ビルの地下現場にて	積込が終了し、退場しようとしている時	地下3階から地上に出ようとして地下内を走行している時に最低地上高を勘違いし、通過する事が出来なくなり、荷を少し降ろして高さを低くしてから退場した。	同じ地下現場でも場所によっては最低地上高が異なるため、一か所のみ確認して安心するのではなく、自車両の通過ポイントにある高さ制限やスプリンクラー等の一は正確に把握する事。	○		○		
7	一般道の交差点内	交差点を右折し、横断歩道に差し掛かった時	交差点を右折し曲った先の横断歩道に差し掛かった時に、左右を良く確認していたつもりだったが、右ミラーに横断者が重なり発見が遅れ、急ブレーキになってしまった。	横断歩道は左右だけでなく、斜めに横断してくる歩行者や自転車もいるため、最徐行を徹底し、体を動かして死角を作らないよう注意する。		○	○		
8	郊外の住宅街	現場に向かい徐行で走行中	住宅街の中にある現場を探して徐行で走行している時に、路上駐車している車両と車両の間から勢いよく子供が自車の前に飛び出してきて、危うく接触しそうになった。	住宅街や公園付近は特に子供の飛び出しが多発する地点のため、現場に焦点を合わせて運転するのではなく、周囲の道路状況をしっかりと把握し、不測の事態にも即座に対応出来るようにする。		○	○		
9	現場内で	ユニック車で廃材を回収している時	吊り荷を自車両の荷台側に旋回する時、上部の電線に気付くのが遅れて、ブームが危うく接触してしまうところだった。	現場到着時に危険予知活動をもっと入念に行い、危険箇所の指差し呼称は当然の事ながら、前に行っているドライバーに確認し、危険箇所の情報を共有する事を徹底する。	○		○		

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
10	道路 切削現場	切削機にて切削積み込み中	切削機の誘導で車両を前進させようとした時、作業員がいて接触しそうになった。	切削機での積み込み作業中は窓から顔を出して誘導を見ているため、前方の安全確認がおろそかになる誘導されて前進する前に周囲の安全確認をする。	○	○			
11	トラックの荷台	荷卸し中	油で足元が滑って荷台から落下しそうになった	すべりにくい長靴で対応			○		
12	東京都世田谷区 成城路上	作業現場に向かう途中で住宅街を時速約15kmで走行中	住宅街の交差点に進入した際に、右側道路から自転車が一時停止をせずに飛び出して来た。急ブレーキで接触を回避出来たが、警察の検証では、たとえ接触していなくても転倒し怪我を負わせてしまった場合、人身事故の扱いと成り得るとのことであった。	相手方が一時停止せず交差点に進入したことが原因であるが、当方が見通しの悪い交差点での一時停止をしなかったことも要因である。たとえ優先道路を走行していても、一時停止し、自転車・歩行者の飛び出しを予測した運転をするように改善する。	○	○			
13	京葉道路下り 船橋インター出口料金所にて	高速道路から出るためにゲートを通しようとしたところ	ゲートバーが開かず、停車することになったが、この際に後続のトラックに追突されそうになった。料金所の係員によると、料金所の機器通信異常が原因とのことである。当日、別の高速道路を利用したが、同様の異常は発生しなかった。	高速道路出入口ゲートに接近する際には距離的余裕を持って徐行する。加害者にならないよう、先行する車両が同様の状況になって「急ブレーキを踏むかもしれない」と想定し、余裕のある車間距離を確保する。		○		○	
14	交通道路信号機のある交差点	車両を運転中、交差点を右折しようとしたとき	交差点内で対向車が右折しようとしており、対向車線が死角となっていた。そのため対向車線に注意を払いながら右折を始めたが、直進車が進行して来ていたため、急いでブレーキを踏んだ。	交差点内で対向車線が死角となる場合は、目線(窓を開けるなどして)で確認後、走行する。	○		○		
15	処分場で	荷卸しをしようとシートを外しているとき	コンテナのフックに掛けてあるシートゴムを外し、荷台上でシートを片付けようとしているときにシートゴムに足が引っ掛かり、荷台上から転落しそうになった。	決して荷台の外側に背を向ける事なく、しっかりと足元を確認して焦らず、一つ一つ確実に行動する。	○				
16	事業所敷地内 通路	事務所前通路にて、現場作業員が待機していた10tダンプを移動させようとしたとき	事前に連絡していたのに、荷台で作業している作業員がいる状態で、車両を移動させようとして動かしてしまった。	車両を場内で移動させる際には、再度無線を入れ、確認を得てから移動する。	○	○			
17	浦安市内 一般道	パッカー車で客先に向かうため、見通しの良い道路を走行中	道路左側の歩道から周囲の確認を全くしない自転車(イヤホン装着)が飛び出して来た。	自転車は身勝手な走行をするものと考え。生活道路を通行するときは「かもしれない」を意識する。		○			
18	千葉市内 一般道	4tアームロール車で客先から処分場に向かう途中	ペットボトルが床に落ちて、ペダルに挟まると思った。	運転に必要なものは転倒、落下しないように確実に保管する。運転席周辺は整理整頓する。	○				
19	君津市内 一般道(林道)	10tダンプ車で処分場に向かう途中	タヌキが急に飛び出して急ブレーキを踏んだが、後続車がいれば追突されていたかもしれない。	後続車を意識して、自車の動作を早めに理解させる運転を心掛ける。道幅の狭い林道では、飛び出して来た小動物はあきらめる。			○		

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
20	客先(排出事業者)敷地内	アームロールに荷積み終了後、シート掛け作業中	シートを張るためにゴムを引いた所で切れて、転倒しそうになった。	シートゴムの定期点検を実施(1回/月と季節の変わり目にする)。車両に交換用ゴムを常備する。				○	
21	浦安市内一般道	4tアームロール車で客先から処分場に向かう途中、交差点を通行している時	横断歩道手前で停車し、歩行者を行かせた後に右側バックミラー(ピラー)の死角に人がいることに気付かず、周囲確認をして発進させようとした時に、突然、歩行者が自車前方に出てきた。	周囲確認時は首振りだけでなく、身体を動かして周囲確認を行う。交差点進入前に周囲の状況を把握する。	○				
22	ショッピングモール(ゴミ庫)	常駐業務	テナントの方が廃棄物をゴミ庫へ運んでくる際、台車に目いっぱい積んできた。視界も悪く、また廃棄物が今にも落ちそうな状態だったので、他の人に接触しないかヒヤッとした。	高さを制限し、不安定な状態を無くす。		○			
23	工場内	荷降ろし作業中	2tトラックに積載している荷物をトラック荷台から降ろそうとしたところ、足が滑り、身体のバランスを崩してトラックから落下しそうになった。	状況を十分に注意し、重心を低くしての作業又は耐滑性のある靴を履いて作業する。	○				
24	積替保管施設	コンテナの積替えをしている時	自動車の修理工場の産廃をコンテナ内に入って積み替えていた時に、コンテナが油だらけで滑って転びそうになった。	油だらけの滑りやすいところは滑る事を予測し、気を付けているが、より気を付ける。			○		
25	お客様ゴミ置き場	産業廃棄物の回収(廃プラスチック等)パッカー車にて	積み込み作業中、割れた破片が自分に飛び、ケガをしそうになる。	積み込み時はテールゲートの後方に立たず(回転板、プレス板が回転している時)車の横の位置に立つ。出来る限り体をよけてから、積み込みスイッチを押す。			○		
26	客先ガソリンスタンド内	廃油回収作業時	フタの無いペール缶に廃油が入っていたため、お客様がドラム缶に移し替えていた時、いきおいよく注いだため、ジョウゴから少し溢れた。事前に吸着マットを回りに敷いていたため、地面にはこぼれなかった。	注ぐときの流動により、火災が発生する恐れがある事も伝え、適正なジョウゴ等を用いて移し替える。		○			
27	大型商業施設内	廃棄物回収終了後、施設内から出場時	施設内の従業員の出勤時間と重なることも多く、慎重な運転を心掛けるも、従業員の中には「ながらスマホ」をしている方もおり、危うく接触しそうになる事もあった。	当方の一層なる細心の注意喚起と、施設側または法律等で「ながらスマホ」禁止を訴えて頂き、危険防止に努めるべきと思われる。		○			
28	市川市内一般道	帰社するために国道走行時	自車の前方を走行している車両が、ウインカーを出さずに突然左折するために停車し、追突しそうになった。	常に車間距離(自車長さの2倍)を保持する。怪しい動向の車両には近づかない。交差点近くは緊張感を高める。		○			

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	ダンピングヤード内	重機で木くずを解体中	木くずが飛散して近くにいた作業員に当たりそうになった。	極力重機による解体作業はしない。解体作業前に無線で全員に連絡する。作業半径内は立ち入り禁止にする。	○	○			○
2	水処理室で	pH計洗浄作業をしていた時に	オペレーターにpH実測表をすぐに渡さず、次の作業に入ってしまった。	pH計洗浄前に、オペレーターに作業前、作業後に連絡し、作業後に実測表を渡すことを実行する。オペレーター側も連絡が入ったら実測表を持ってくることを伝える。	○				
3	硫黄フィルタープレスA付近で	現場点検中に	硫黄フィルタープレスAのアラームが発生したので、現場へ向かい確認の際に、床にこぼれたいた液で足が滑り転倒しそうになった。	床の排水口が高い位置にあり排水が出来ていなかったため、設備の改善を依頼。フィルタープレス周辺を歩く際は、液がこぼれているかもしれないとKYしながら足もとをよく見て歩く。			○	○	
4	地下2号水砕ストレーナで	水砕ストレーナ清掃作業で循環ラインを切り替えたとき	エア抜きを怠り、循環水にエアが入り設備停止になりそうになった。	作業前に、作業手順をよく確認し、作業の際は指差呼称を行い、誤操作等のミスを防止する。	○				
5	操作室で	炉のバーナを点火していた際に	ほかのオペレーターが誰にも言わずに現場でバーナの点検・点火作業をしていたため、オペレーターが感電しそうになった。	現場に出る際は、どこに行き、どんな作業をするのか言ってから現場へ出る。作業の際は、無線で作業開始の連絡を行う。	○	○			
6	深夜、メインピット付近で	外回りのパトロールのため歩行中に	トイレ前の段差に躓き転倒しそうになった。	照明がないところで暗いため、ヘッドライトを点灯し歩行するはずだが怠った。ヘッドライトを点灯し歩行し、足元をよく見る。	○				
7	水処理室内で	イオン交換樹脂の運搬をしていた時	樹脂の袋の上に樹脂の粉がこぼれているのに気づかず、そのまま方に担いで運搬したため、目に違和感を感じた。(汗か粉か不明)すぐに目を洗浄し大丈夫だった。	運搬方法を改善し、肩に担がないよう台車で運搬する。多い場合はホイストクレーンを使用する。	○		○		
8	屋外排水処理設備で	ポリマータンクへポリマーを投入する際に	床面が腐食しており、穴が開き、タンク内へ墜落しそうになった。	立入禁止措置を実施。不具合報告提出、仮措置として足場板を敷き対応した。				○	
9	屋外ガス精製設備で	硫化水素濃度測定のため、検知管をセットした際に	検知管のガラスが割れ、ケガしそうになった。	検知管のガラス先端の割り方の使用方法を再教育(ガス吸引器についているチッププレーカーでガラスに傷をつけてから折る)し、作業を行う。	○				
10	汚泥濃縮槽で	汚泥の引き抜き流量を確認している際に	水中ポンプのホースバンドが外れて、汚泥が噴出し被液しそうになった。	ホースバンドの定期点検を行い、締め状況を確認する。ホースバンドは二重化とする。				○	
11	亜鉛フィルタープレスB下で	フレコンバックを交換作業の際に	フォークリフトに乗り、フレコンバックのパレットに爪を挿すため前進した際に、ブレーキを踏んだがブレーキが利かずフレコンバックにぶつかりそうになった。	大雨で水たまりを走行した際に、ブレーキパッドに水が入り、ブレーキが利かなくなっていたので、ブレーキの利き具合を確認し、ブレーキが利くようになってから使用する。			○		

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
12	構内大型車駐車位置で	大型バキューム車の始業点検をしていた際に	軽油の給油キャップが開いたままだった。 昨日の業務は開いたまま走行した模様で構内専用車ではあるが、環境事故につながる恐れがあった。 周辺に軽油がこぼれた形跡はなし。	給油した後、必ず指差呼称で「閉」確認を徹底する。		○			
13	2号炉プレス点検通路にて	点検パトロール時	階段昇降口関係者以外立入禁止チェーン取り付け後に、体を振り返る際、足場台の端に足をかけてしまい、転倒しそうになった。	台等ある場所では、端を踏まないよう足元をよく確認し歩行する。	○				
14	事業所敷地内ピット中通路	中通路にて重機によるフレコン解体作業時	重機が稼働しているにもかかわらず作業員が横を通過してしまい、危なかった。 本来、重機稼働中は無線にてオペレーターに通る旨を伝え、重機を停止してもらってから通る事になっている。 無線は入れたものの、オペレーターからの返事がないまま横を通過してしまった。	重機稼働時は旋回範囲内に入らない、中通路を通らないこととする。 どうしても必要な際には、無線にてオペレーターからの返事をもらってから通ることとする。		○			○
15	事業所敷地内	ピット～養生棟清掃時	場内の清掃を行っている際、側溝の水の流れが悪く、側溝内に腕を肘まで突っ込みポンプを取り上げて砂を振り落とした。 水の流れは改善されたが、後にポンプの電源が入ったまま作業をしてしまっていた事がわかり、漏電の可能性にヒヤリとした。	水中電気設備を扱う際には、まず電源を落とし、保護手袋を用いて扱うこと。	○				
16	右ピット前	フォークリフトで移動中	台車を終えたトラックが右折で進入して来て「ヒヤリ」とした。	コーナーミラーは設置されているが、鏡が汚れている時があるため、気付いたら掃除する。 また、ミラー直視だけでなく、一時停止する。 構内はトラックも含めて、即停車できる速度「徐行」を徹底してもらう。 ※他社への通達を励行		○	○		
17	ゴミピット	フォークリフトを使用し、汚泥タンク内の汚泥を処理中	処理中に汚泥タンクがピット内に落下、自分の体も一緒に落下しそうになった。	自重でタンクが変形するほどの量・重さだったので、水中ポンプ等で事前に重量を減らし、重心を分散させておくべきだった。 落下する危険の無い平地で処理を行うべきだった。	○				
18	ファンフィルター周辺で	フィルターを外すとき	足元にフィルターがあたった。 サンダルを履いており、重い鉄板なので危なかった。	安全靴を履く。	○				
19	コンテナで	コンテナの上に乗ってシート掛けをするとき	足元が濡れていたため落ちそうになった。	脚立を使う。	○		○		
20		エアーコンプレッサーでエアーを吹こうとしたとき	エアーガンが外れ、ホースが暴れた。	ホースをしっかりはめる。	○				

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
21		減温比例弁のYスト清掃時	バイパスに切り替えて作業していたところ、バイパス側の水が少なく、減温出口温度が急上昇。クレーンオペレーターからすぐに連絡が入り、バイパスの水量を増やして早急に通常ラインに戻した。 ※240℃超まで上昇	作業前に温度管理者(クレーンオペレーター)と連絡を取り、互いの状況を把握する。現場作業者は圧力計や、温度管理者と温度を確認しながら作業する。そもそも必要時以外はこの作業をしない。	○		○		
22	投入機周辺	感染投入ファンフィルター清掃	エアーストに足を引っ掛け、転倒しそうになった。	ホースリール等でしまえる様にする。エア配管を増設する。	○			○	
23	保管庫前	ユンボ(クレーンモード)にて大型車からフレコンバッグを吊って荷降ろししているとき	フレコンバッグを吊り上げた瞬間、フレコンバッグの底が抜けて中身が飛散した。	地切りを確実に行き、慎重に行うこと。	○				○
24	保管庫前	スワイパーにて保管庫前を清掃していたとき	ユンボが急に後退して来てスワイパーと接触しそうになった。	ユンボ操作者は後方確認し、スワイパー操作者は後ろを通る事を無線で連絡する。				○	○
25	保管庫前	大型車の荷降ろしが終わったとき	後ろにいたら、車がバックしてきた。	ドライバーの死角に居ないようにする。	○	○			
26	保管庫	ユンボで前処理をしているとき	塩ビ管が割れて飛び、フロントのガラスが割れた。	金網を目の細かい物にした。				○	○
27	自動袋詰機付近の階段で	手に空カゴ4個を持って階段を降りるとき	空カゴが邪魔で足元が見えず足を踏みはずし、転倒しそうになった。	大きなものを持って階段を降りるときは足元が見えなかったら無理をしない。	○				
28	自社工場棟内	搬入車両が荷を降ろしているとき	搬入車両が荷台をダンプして荷降ろしていた時、少し前進するよう誘導を行ったが、運転手が誤ってギアをバックに入れてしまったため、慌てて数名でその運転手を制止した。	誘導時は必ず運転手から見える位置で行うことを徹底する。(今回はその位置できちんと誘導を行っていたが、もう一度周知させる)前進させるときには、バックに入っていないか音をよく聞いてから誘導を始める。				○	
29	高速回転破砕機室	ハンマー取り付け作業を行っていたとき	ハンマーを取り付けている時、奥までハンマーヘッドが入らず、無理やり押し込んでしまい、指先をくぼみの間に挟みそうになった。	上手くはまらない場合は手で入れようとせず、一旦外すか、ハンマーで叩くなど道具を利用してはめる。ハンマーヘッドの持ち手に気を付ける。くぼみ部分に手を入れない。	○				
30	容り残渣置き場前	残渣積み込み作業時	残渣をパッカー車に積み込む時、残渣が引っ掛かり、手で引っ掛かりを取り除いていたところ、回転板が作動して(パッカー車の運転手が操作)、手をまき込まれるところだった。	パッカー車の運転手と声を掛け合いながら作業する。	○	○			
31	切断分離棟	ドラム内の廃棄物を手選別作業時	内容物に鋭利な金属くずが混入しており、ゴム手袋が切れた。	折衝手袋の着用 鋭利な物の混入不可の周知徹底	○		○		

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

30.10.31までの回答分

## 中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
32	施設内	フォークリフトで荷を運んでいるとき	フォークリフトで濡れた路面を走行中、ブレーキを踏んでも減速出来ず、危うく壁に激突しそうになった。	車両を運転するときは、場内の路面の状態を見て行動することを改めて考えさせられた。危険な速度は出さずに直ぐに止まれる速度で走行する。			○		
33	事業所プラットフォーム	蛍光管破砕機を使用し、蛍光管を破砕しているとき	破砕機に長型蛍光管を入れた際、蛍光管の種類により全破砕されず、半分が作業員目がけて飛び出して来る。	機械の特性である故、完全防止は難しいと思われるが、挿入口真中には立たず、保護メガネを着用し、事故防止に努める。			○	○	
34	場内にて	フォーク使用時	フォークに乗る時、足場を踏み外しそうになった。	重機を使用する際は安全確認をする(指差し確認)。	○				
35	処分場敷地内	コンパクターで転圧作業中	コンパクターをバック走行で転圧作業中、縦型ガス抜き管に衝突しそうになった。	作業前に周囲の安全、構造物の位置を確認してから作業を行うとともに、構造物にはカラーコーン等の目印を設置する。	○				
36	処分場外周道路	モニタリング井戸の水を採水するために、外周道路を早足で歩いているとき	早足で階段を降りて足を踏み外し、転倒しそうになった。	急いでいるときも、落ち着いて行動するようにする。	○				
37	処分場敷地内 落し場	搬入車両を誘導中	落し場の敷鉄板と敷鉄板のジョイント部に隙間があり、敷鉄板に足が引っ掛かり、転倒しそうになった。	落し場の敷鉄板は、常に隙間が無いように敷設しておく。				○	
38	水処理施設内	水処理施設内を点検中	通路に工具箱が置いてあり、つまづきそうになった。	整理整頓を行い、特に通路には物を置かない。			○		
39	処分場周辺の林道	林道点検中	車で走行中、見通しの悪いカーブでスピードを出していた一般車と衝突しそうになった。	ヘッドライトを点灯し、徐行速度(30 km/h)以下で林道を走行する。		○			
40	処分場敷地内	廃棄物の搬入を行っているとき	搬入車両が搬入路をバックした際に敷鉄板から脱輪し、横転しそうになった。	搬入車両がバックする際は、警備員または誘導員が誘導して、車両の安全を確保する。		○			
41	処分場敷地内	シート固定用ピンを打っているとき	ピンをハンマーで打ちつけているとき、ピンを支持している左手をハンマーで打ちしそうになった。	慌てずに慎重に作業を行う。	○				
42	処分場 天頂部	雨水対策シート上を歩行しているとき	長靴の底が減っていて、段差で滑り、転倒しそうになった。	底が減っている長靴を使用しない。	○				